

写真家の父ちゃんが、2歳の息子にあてた
旅先からの手紙

父ちゃんから
の手紙 ⑫

Letter from
Dad



林太郎へ

父ちゃんがそちらを出るころはまだ寒かったけれど、少しは暖かくなりましたか？ 今、父ちゃんがいるのは地球のちょうど裏側。ブラジル・リオデジャネイロのビーチです。

ここはちょうど夏真っ盛り。まぶしいくらいに輝く白い砂浜に、色とりどりのパラソルが並んでいて、とてもきれいです。遠くからはカーニバルの太鼓やトランペットの音が聞こえてきます。

そんなビーチの主役はなんと言っても御老人たち。若いお姉さんたちに負けないかわいい水着を着て、子どもたちより元気に遊んでいます。海に入って泳ぎ、浜でボール遊びをして、パラソルの下でビールを飲む。赤い水着を着た80歳を超えるおばあさんが言っていました。「人生は120パーセント楽しむものだ」ってね。父ちゃんと母ちゃんの何年も先の夢がここにあります。

公文健太郎 (くもん けんたろう)

写真家。1981年生まれ。国内だけでなく、ネパールなど海外の被写体をテーマに作品を撮り続け、写真集やエッセイ、写真展などで発表している。2児の父。<http://www.k-kumon.net/>